

第4回：二項分布(2回目)

復習：1回の試行(コイン投げ)では、2つの事象(表か裏か)のうちいずれかが、それぞれ p と $1-p$ の確率で起こる。それを、 n 試行繰り返したとき、表が x 回出る確率：

$$p(x) = \binom{n}{x} \cdot p^x (1-p)^{n-x}, \quad x = 0, 1, 2, \dots, n$$

2つのパラメータ n (自然数), p ($0 < p < 1$) で表される。 $x=0, 1, 2, \dots, n$ の上で定義された離散確率分布。 $B(n, p)$ と書く。

二項分布の4つ目の例：メレ氏の失敗

サイコロ2個を24回振ったとき、6の「ゾロメ」(2つのサイコロとも6の目)が少なくとも1回出る確率は？ 確率分布は $B(24, 1/36)$

$$1 - p(0) = 1 - \binom{24}{0} \left(\frac{1}{36}\right)^0 \left(\frac{35}{36}\right)^{24} \\ = 1 - 0.5085961 \dots = 0.49140 \dots$$

となり、0.5より小さい。
つまり、「少なくとも1回出るか、出ないか」のいずれかに賭けるならば、「出ない」確率の方がわずかに高い。
⇒ 「出る」に賭けた『フランス人貴族ド・メレ氏の失敗』

二項分布の平均と分散

その前に、まず復習：

●階乗

$$n! = n \cdot (n-1) \cdots 1, \quad 1! = 1, \quad 0! = 1,$$

n の増加とともに、 $n!$ は急速(指数関数的)に大きくなる。
 $n!$ は、相異なる n 個のもの全てを、順に並べる並べ方の総数。 n 個の順列の数。

●組み合わせの数

相異なる n 個の中から x 個を選び出す組み合わせの数。

$$\binom{n}{x} = \frac{n!}{x!(n-x)!} = \frac{n \cdot (n-1) \cdot (n-2) \cdots 2 \cdot 1}{x \cdot (x-1) \cdots 1 \cdot (n-x) \cdots 1} \\ = \frac{n \cdot (n-1) \cdot (n-2) \cdots (n-x+1)}{x \cdot (x-1) \cdots 1}$$

二項定理 関連事項

$$(a+b)^n = \sum_{x=0}^n \binom{n}{x} a^x b^{n-x}$$

$$(a+b)^n = \underbrace{(a+b) \cdot (a+b) \cdot (a+b) \cdots (a+b)}_n$$

$a^x b^{n-x}$ という項は、全部で n 個ある()のうち、 x 個の()から a を、残りの $n-x$ 個の()から b を選んだときに得られる。このような選び方の数は、「 n 個から x 個を選ぶ組み合わせの数」なので、 $\binom{n}{x}$ によって、 $\binom{n}{x}$ を二項係数とも呼ぶ。

$$(a+b) = a+b$$

$$(a+b)^2 = (a+b) \cdot (a+b) = a^2 + 2ab + b^2$$

$$(a+b)^3 = (a+b) \cdot (a+b) \cdot (a+b) = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3$$

$$(a+b)^4 = (a+b) \cdot (a+b) \cdot (a+b) \cdot (a+b) \\ = a^4 + 4a^3b + 6a^2b^2 + 4ab^3 + b^4$$

確率分布が満たすべき2条件の確認

- 二項分布を考えるときの重要な仮定は、 n 回繰り返し行う試行が、いずれも同一で互いに独立であること ⇔ ベルヌーイ試行という

$$p(x) = \binom{n}{x} \cdot p^x (1-p)^{n-x}, \quad x = 0, 1, 2, \dots, n$$

- $p(x) \geq 0$
 - $\sum_{x=0}^n p(x) = 1$
- 確率関数が満たすべき2式

$$\therefore \sum_{x=0}^n \binom{n}{x} p^x (1-p)^{n-x} = (p + (1-p))^n = 1^n = 1$$

さて、やっと...二項分布の平均

$$\begin{aligned}
 \mu &= \sum_{x=0}^n x \cdot p(x) \\
 &= \sum_{x=0}^n x \cdot \frac{n!}{x!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} \\
 &= \sum_{x=0}^n x \cdot \frac{n \cdot (n-1)!}{x \cdot (x-1)!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} \\
 &= \underbrace{0 \times p^0 (1-p)^n}_{x=0} + n \times \sum_{x=1}^n \frac{(n-1)!}{(x-1)!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} \\
 &= \frac{0}{x=0} + n \times p \times \sum_{x=1}^n \frac{(n-1)!}{(x-1)!(n-x)!} \cdot p^{x-1} (1-p)^{(n-1)-(x-1)} \\
 &= np \times \sum_{x'=0}^{n-1} \frac{(n-1)!}{x'!(n-1-x')!} \cdot p^{x'} (1-p)^{n-1-x'} \quad (x' = x-1 \text{ とおく } x' = 0, \dots, n-1) \\
 &= np \times \sum_{x'=0}^{n-1} B(n-1, p)(x') \\
 &= np
 \end{aligned}$$

毎回 p の確率で生起することを、 n 回互いに独立な試行として繰り返す。よって合計の生起回数の平均は、
 $p + p + p + \dots = np$

同様にして...二項分布の分散

$$\begin{aligned}
 \sigma^2 &= \sum_{x=0}^n x^2 \cdot p(x) - \mu^2 \quad \leftarrow \text{復習} \\
 x^2 &= x(x-1) + x \quad \leftarrow \text{技巧} \\
 \sum_{x=0}^n x^2 \cdot p(x) &= \sum_{x=0}^n \{x(x-1) + x\} \cdot \frac{n!}{x!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} \\
 &= \sum_{x=0}^n x(x-1) \cdot \frac{n(n-1) \cdot (n-2)!}{x(x-1) \cdot (x-2)!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} + \mu \\
 &= 0 \times (-1) \times p^0 (1-p)^n + 1 \times 0 \times np(1-p)^{n-1} + n(n-1) \times \sum_{x=2}^n \frac{(n-2)!}{(x-2)!(n-x)!} \cdot p^x (1-p)^{n-x} + \mu \\
 &= \frac{0}{x=0,1} + n(n-1) \times p^2 \times \sum_{x=2}^n \frac{(n-2)!}{(x-2)!(n-x)!} \cdot p^{x-2} (1-p)^{(n-2)-(x-2)} + \mu \\
 &= n(n-1)p^2 \times \sum_{x'=0}^{n-2} \frac{(n-2)!}{x'!(n-2-x')!} \cdot p^{x'} (1-p)^{n-2-x'} + \mu \quad (x' = x-2 \text{ とおく } x' = 0, \dots, n-2) \\
 &= n(n-1)p^2 \times \sum_{x'=0}^{n-2} B(n-2, p)(x') + \mu \\
 &= n(n-1)p^2 + \mu
 \end{aligned}$$

二項分布の分散(続き)

$$\begin{aligned}
 \sigma^2 &= \sum_{x=0}^n x^2 \cdot p(x) - \mu^2, \quad \mu = np \\
 \sum_{x=0}^n x^2 \cdot p(x) &= n(n-1)p^2 + \mu \\
 \sigma^2 &= n(n-1)p^2 + np - (np)^2 \\
 &= np - np^2 \\
 &= np(1-p)
 \end{aligned}$$

前回の問題: 以下の2つの確率を求めなさい。

問1: サイコロ1個を4回振ったとき、6の目が少なくとも1回出る確率を求めなさい。確率分布は $B(4, 1/6)$

$$\rightarrow 1 - p(0) = 1 - \binom{4}{0} \left(\frac{1}{6}\right)^0 \left(\frac{5}{6}\right)^4 = 1 - 0.482253086... = 0.517746914... > 0.5$$

問2: サイコロ2個を24回振ったとき、6の「ゾロメ」が少なくとも1回出る確率を求めなさい。確率分布は $B(24, 1/36)$

$$\rightarrow 1 - p(0) = 1 - \binom{24}{0} \left(\frac{1}{36}\right)^0 \left(\frac{35}{36}\right)^{24} = 1 - 0.5085961... = 0.4914039... < 0.5$$

問3: 出る回数の平均 $\mu = np$ は、 $4 \times 1/6 = 24 \times 1/36 = 2/3$ より2つの分布で等しい。しかし、「少なくとも1回出るか、出ないか」のいずれかに賭けるならば、問1は、「出る」確率の方が、問2は「出ない」確率の方が、いずれも差はわずかながら、高い。

⇒ パスカールとフェルマーが往復書簡で議論し、確率論の創始へ。

2つの二項分布をグラフで比較すると

